

最優秀賞

ふれあい賞

おばあちゃんとのりよこうと車いす

伊勢原市立緑台小学校

一年 安倍花怜

わたしは八月におばあちゃんとかぞくのみんなで仙台へりよこうにいきました。おばあちゃんは足がわるくて、いどうするときは車いすをつかっています。おばあちゃんは生まれた町へひさしぶりにいくので、りよこうをとともたのしみにしていました。

だけど、おばあちゃんとわたしたちのりよこうには、いろいろ大へんなことがありました。でん車にのるときのだんさや、ホームに上がったり下がったりするためのエレベーターをさがすのにくろうしました。仙台えきでは、こうじをしていてエレベーターがつかえず、とても大へんそうでした。車いすがつかえないばしよで、おばあちゃんは、「ごめんね」となごもさみしそうなかおをしていました。かえってきたおばあちゃんのひざには水がたまってい

て、びょういんで水をぬいたら血もまじっていて、とてもいたかったそうです。わたしは、おばあちゃんがたのしかったけれどつらかったのかなと思いました。わたしは車いすのままのりこめるでん車のせきやだんさのないホームつかいやすいエレベーターがもつとあるといいのにと思いました。

でも、りよこうはわるいことばかりではありませんでした。車いすのりおりいっしょに手つだってくれる人や、車いすでいどうできるところまであんないしてくる人もたくさんいたので安心しました。おばあちゃんがたのしい思い出をつくれたのは、たくさんの人のたすけがあつたからだと思いました。

わたしは今回のりよこうで体のことでこまっている人たちがもつとたのしい思い出をつくれるように、体のことでこまっている人のためのせつびがふえてほしいと思いました。また、わたしたちをたすけてくれた人たちのように、こまっている人への思いやりをもてるようにがんばりたいと思いました。